

テーマ：2016年1-3月期GDP（2次速報値）の予測
 ～1次速報から変化なしと予想～

発表日：2016年6月1日（水）

第一生命経済研究所 経済調査部
 主席エコノミスト 新家 義貴
[TEL:03-5221-4528](tel:03-5221-4528)

6月8日に内閣府から公表される2016年1-3月期実質GDP（2次速報）を前期比年率+1.7%（前期比+0.4%）と、1次速報段階の前期比年率+1.7%から変わらずと予想する。設備投資の上方修正を、公共投資と在庫の下方修正が打ち消し、全体では変化なしとなる見込みだ。1次速報から景気認識に変更を迫るような結果にはならないだろう。

+1.7%という数字は一見高く見えるが、うるう年による日数増の要因によって見かけ上押し上げられており（前期比年率で+1.2%Pt程度の押し上げと試算される）、この押し上げ分を除けば前期比年率+0.5%の小幅増にとどまる。15年10-12月期が前期比年率▲1.7%とはっきりとしたマイナス成長だった後にもかかわらず、1-3月期もこの程度ということであれば、弱い結果という評価で問題ない。日本経済の停滞が持続していることを改めて確認する結果になると予想する。

2016年1-3月期GDP2次速報予測

1次速報実績

	(%)	(%)
実質GDP	0.4	0.4
(前期比年率)	1.7	1.7
内需寄与度	0.2	0.2
(うち民需)	0.1	0.1
(うち公需)	0.2	0.2
外需寄与度	0.2	0.2
民間最終消費支出	0.5	0.5
民間住宅	▲0.8	▲0.8
民間企業設備	▲0.3	▲1.4
民間在庫品増加(寄与度)	▲0.1	0.0
政府最終消費支出	0.7	0.7
公的固定資本形成	▲0.7	0.3
財貨・サービスの輸出	0.6	0.6
財貨・サービスの輸入	▲0.5	▲0.5

※断りの無い場合、前期比(%)
 (出所)内閣府「国民経済計算」、第一生命経済研究所

設備投資は前期比▲0.3%と、1次速報段階の▲1.4%から上方修正されると予想する。本日公表された16年1-3月期の法人企業統計では、名目設備投資が季節調整済み前期比+1.4%と増加し、GDP名目設備投資の1次速報値である前期比▲2.2%を大きく上回った。QE推計において実施されている法季のサンプル要因を除去するための断層調整や金融機関の設備投資の反映などを行えば、法季公表値よりも弱くなるが、それでも設備投資の需要側推計値は上方修正要因になると予想される。また、1次速報で未公表だった3月分の経済指標の反映等により、供給側推計値も上方修正されるとみられる。結果として設備投資は1次速報か

ら比較的大きな上方修正となるだろう。企業収益の大幅悪化など、設備投資を取り巻く環境が悪化しつつあり、先行きについては下振れ懸念があることは否めないが、少なくとも16年1-3月期までの段階では、設備投資は均してみれば緩やかな増加傾向にあったと判断できる。

公共投資は前期比▲0.7%と予想する。1次速報段階で未公表だった16年3月分の建設総合統計の結果が下振れたことで、1次速報の+0.3%から下方修正されると予想する。

在庫投資は前期比寄与度▲0.1%Ptと、1次速報段階の0.0%Ptから下方修正と予想する。法人企業統計の結果を反映させることで、仕掛品在庫が下方修正されると思われる。